令和7年度（2025年度）第1回 熊本県文化財保護審議会

- 1 日 時：令和7年（2025年）7月29日（火）
午前9時半から午前11時半まで
- 2 場 所：熊本県庁行政棟本館 5階 審議会室
- 3 出席者：伊東会長、小畑副会長、森山委員、小粥委員、大森委員、五島委員、前川委員、稲葉委員、小川委員、中西委員、山崎委員、山下委員、杉井委員、藤田委員、副島委員、田中委員
- 4 議 事： 1 開会
2 教育総務協調あいさつ
- 3 議題
(1) 報告事項
(2) 協議事項
- ※ (1) 報告事項は公開、(2) 諮問事項は非公開
-

1 開会

2 教育総務局長あいさつ

3 議題

(伊東会長)

- それでは、委員の先生方、よろしくお願いします。
- まず、議事の公開非公開についてお諮りします。
- 事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- 議事（1）報告事項は公開、議事（2）協議事項は個人情報等が含まれることから、審議会等の会議の公開に関する指針第3公開の基準に基づき、非公開とすることをお諮りいたします。

(伊東会長)

- 事務局からの提案について御意見はありますか。

(異議なし)

(伊東会長)

- それでは、提案のとおり議事（1）報告事項は公開、議事（2）協議事項は非公開とします。

(1) 報告事項

(伊東会長)

- 議事(1) 報告事項に入ります。事務局から報告事項まとめて説明をお願いします。

(事務局)

- ※ 資料に基づき事務局より説明。

(伊東会長)

- ただ今の報告について御意見・御質問をお願いします。

(山崎委員)

- 前回審議会で質問をさせていただきました担当者の分野について、詳しくまとめていただいて本当にありがとうございました。面倒な仕事を依頼してしまい申し訳なかったですけれども、これで県下の文化財保護における職員体制の現状がよく把握できたかなということで、大変いい作業していただいたと思います。
今後、色々と活かせるものがあると思いますので、どうもありがとうございました。

(伊東会長)

- ほかに御意見や御質問はありませんか。

(藤田委員)

- 今の御意見に関連しますけれども、文化財保存活用地域計画と各市町村の体制です。多良木町は(専門職が)2名いらっしゃる。市町村の体制の充実度と地域計画を作っただけという動きというのは、何か関連しそうなところがあるのでしょうか。なぜ、この自治体が先行してこれを実現できたのかというところの何か分析みたいなものがあれば教えてください。

(事務局)

- 県内の市町村担当者の方々を集めた今年度の「熊本県市町村文化財保護行政主管課長・担当者会議」の際に文化財保存活用地域計画の説明をする中で「計画を作成された市町村がなぜ作成を決めたのか」少し聞き取りをいたしました。その結果、作成のきっかけは、「文化財担当者から作ろうと考えた」ところが全てです。
また、「コロナ禍や社会情勢の変化で、従前持っていた計画がそぐわなくなり、計画の改定をしようと思った」という声や、文化財は今まで個別に保存活用計画を作っておりましたが、「個別計画の前に全体計画を作って自分たちが仕事をしやすくしたい」と思われたことがきっかけとして大きかったようです。ただ、やはり人手が足りない市町村は、作成しなくてはいけないことは分かっているし、自分たちのためにもなるのも分かるけれども、まだ一步を踏み出すのが難しいという状況が県内にはある感じです。

(伊東会長)

- ほかに御意見や御質問はありませんか。

(大森委員)

- これも関連してですが、(専門職の) 人員配置を見ますと、建造物がゼロになっています。なぜ建造物は採用されないのでしょうか。それから、建造物は一番活用しやすいものだと思います。修理も大変ですし、費用もかかりますけれども、一番文化とか歴史が分かりやすい形で外に現れてきているものですから、この建造物をいかに修理して活用するかというのは大事なテーマだと思います。建造物の技術者の採用をぜひ考慮いただきたいという要望です。

(事務局)

- 御意見ありがとうございます。我々も建造物の重要性はしっかり認識しておりますが、文化財行政の採用の色々な状況の中で、なかなかこれまでの条件が整っていなかったというところがありますので、今後そのあたりも市町村の皆さんともお話をしていきたいと思っております。

(大森委員)

- ぜひ、県が率先して採用していただきますようよろしくお願いします。

(伊東会長)

- ほかに御意見や御質問はありませんか。

(山下委員)

- 人材育成といいますか、県民への情報提供や出前事業、出前講座を積極的にされていて、お疲れさまです。最近、市町村で民俗事象を知りたいと思って図書館に行くと、小さい図書館ほど、特にまた何らかの改修が入った図書館ほど、「〇〇史談会」など県民の人たちが昔から作っていたような雑誌が配架されていません。古くて大きめの図書館だと多少あることもありますが、むしろトレンドとしては、どの図書館も県民に喜ばれるものを置くというコンセプトがあるのでしょうか、よく読まれる本ばかり置いていてそういったかつての資料というものは、考古学の調査資料も含めて配架されていないように思います。そのため、不特定多数の市民が何らかそういった情報を得たいとした時に、その情報というのが、どんどん潰えています。この文化財保存活用大綱において、図書館との連携を一つ考えられたらいかがでしょうか。

(事務局)

- 県、市町村ともに、そういうお話を伝えていきたいと思えます。

(伊東会長)

- ほかに御意見や御質問はありませんか。

(副島委員)

- 天然記念物関係（の専門職）が非常に少ないと前から思っています。記念物の中では史跡に非常に人員を割いています。熊本県は歴史文化において非常に大きなものをお持ちで、これを大事にされているということは分かりますが、自然文化といいますか、天然自然にも非常に肝心なものがたくさんあります。それに対する意識が低いのではないかと見ていて、思わざるを得ないのですけれども、そのあたりは今後強化してもらえる可能性があるのでしょうか。どのように取り組まれておられるのか、お聞きしたいと思います。

(事務局)

- （専門職の）配置もこの文化財の種類毎に、職員を揃えて対応するのが一番理想だというのは認識しております。ただ、どうしても組織の定員の中で、通常業務というものが多分野から採用してきたという歴史があります。ただ先生が言われるように重要度は認識しておりますので、今の範囲の中で少しずつ、色々な対応の方法を組織の中で考え関係課と協力しながら取り組んでいき、将来的なところは理想に近づけるよう目指していきたいと思えます。

(副島委員)

- 関係課と言われましたが、それこそ自然保護関係で環境行政をされていると思えます。そういうところで自然保護の対象になっているものやあるいはそういうところで漏れてむしろ文化財の方が適当であるということもあると思えますので、このあたりの情報共有をしていただきたい。何かしら協力関係を持って、ある意味住み分けみたいなことをして対応していただければと思えます。

(事務局)

- 承知いたしました、参考にさせていただきます。

(伊東会長)

- 委員の方々、それぞれよろしいでしょうか。
- これで議事（1）報告事項を終わります。
- それでは、これからの議事には、審議内容に個人情報などが含まれますので、報道関係者は御退室をお願いします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（以下、非公開）・・・・・・・・・・・・・・・・